

れいこうとれいきょう

－ 霊香の読み－

辞書	れいこう	れいきょう
広辞苑 (第6版)	<p>霊妙なおい。れいきょう</p> <p>事実上、「から見出し」</p> <p>「香=きょう」で始まる見出し語： 香、香落ち、香箸（きょうじ）の3語。</p>	<p>霊妙なおい。不思議なかおり。 謡 羽衣「～四方に薫ず」</p> <p>事実上、「本見出し」</p> <p>同じ漢字の香箸（こうばし）は「から見出し」</p>
日本国語大辞典	<p>れいきょう（霊香）に同じ。</p> <p>日葡辞書（1603～04）「レイカウ。レイ キャウの方が良い。スグレタル ニヲイ」</p> <p>「から見出し」扱い</p>	<p>不思議な よいかおり。霊妙なおい。れい こう。</p> <p>光悦本謡曲・羽衣（1548頃）「浦の気色を詠 る処に、虚空に花ふり音楽聞こえ、霊香四方に薫ず」</p> <p>日葡辞書（1603～04）「レイキャウ。すなわ ち、ヨイ ニヲイ」</p> <p>「本見出し」扱い</p>
大辞林 第7版	<p>不思議なかおり。れいきょう。</p> <p>「本見出し」</p>	<p>→れいこう（霊香）</p> <p>「から見出し」</p>
新明解国語辞典 第7版	見出し語にない	見出し語にない
字通 (白川 静)	<p>「香」は 字音：コウ（カウ） キョウ（キャウ） 字訓：か かおり におい かんばしい</p> <p>用語例として、「霊香=れいきょう」があった。意味は妙香とある。 香で始まる語彙と用語例を100ほど載せているが、香の発音はすべて「こう」である。</p>	

室町時代末期からすでに謡曲で「れいきょう」と読まれていたこと、江戸時代の初めの『日葡辞書』で「レイキャウの方が良い」とはっきり書かれていたことからして、「れいこう」は間違いではないにしても、「れいきょう」に軍配をあげざるをえない。

赤字は、辞書説明で注目すべき記述

青字は、蛭川コメント。